

4 分析結果の概要（詳細分析は9ページから24ページまで）

(1) 論理的な文章（大問〔一〕）を読む力について

松岡享子著『子どもと本』より、著作権の許諾を取った上で出題した。本文は、児童図書関係の仕事に長年携わっている筆者が、幼児を本の世界へ導く大人の役割について述べた部分である。話し言葉を基調とする平易な文章であるため、全体的に正答率が高いが、抽象化された表現を具体的に言い換える問いについては、例年同様、正答率が低い。文脈に沿って言葉を置き換えながら丁寧に読み解く経験を、さらに積ませる必要がある。

(2) 文学的な文章（大問〔二〕）を読む力について

角田光代著『キッドナップ・ツアー』より、著作権の許諾を取った上で出題した。本文は、昨年度に引き続き、子どもを主人公とする現代の小説の一部分であるが、読解の鍵となる語彙についての理解が十分でなく、登場人物の行動や心情を読み誤る傾向が見られた。文章を読み、さまざまな語彙や表現に触れる機会を、授業の内外において増やすことが肝要である。

(3) 国語基礎力（大問〔三〕）について

前半は掲示物の作成について、後半は漢字の読み書きや言葉の知識について出題した。掲示物の作成においては、特に中位・下位層で情報を整理・分類する力に課題が見られた。KJ法の活用などを通じて、こうした力を育成したい。漢字の読み書きについては、中位・下位層を中心に、常用漢字を書く力に課題があるので、さまざまな機会を捉えて学習させたい。

(4) 古文（大問〔四〕）を読む力について

江戸時代前期の仮名草子「浮世物語」より出題した。本文は、馬飼いに餌を横取りされた栄養不足の名馬が、馬飼いの不正を主人である大名に訴える場面である。例年同様、すべての大問の中で上位層と下位層の差が最も大きく、下位層では全体の文脈を捉える力に課題がある。動作や発語の主体に一つ一つ着目しながら、丁寧に読解する経験を積ませたい。